

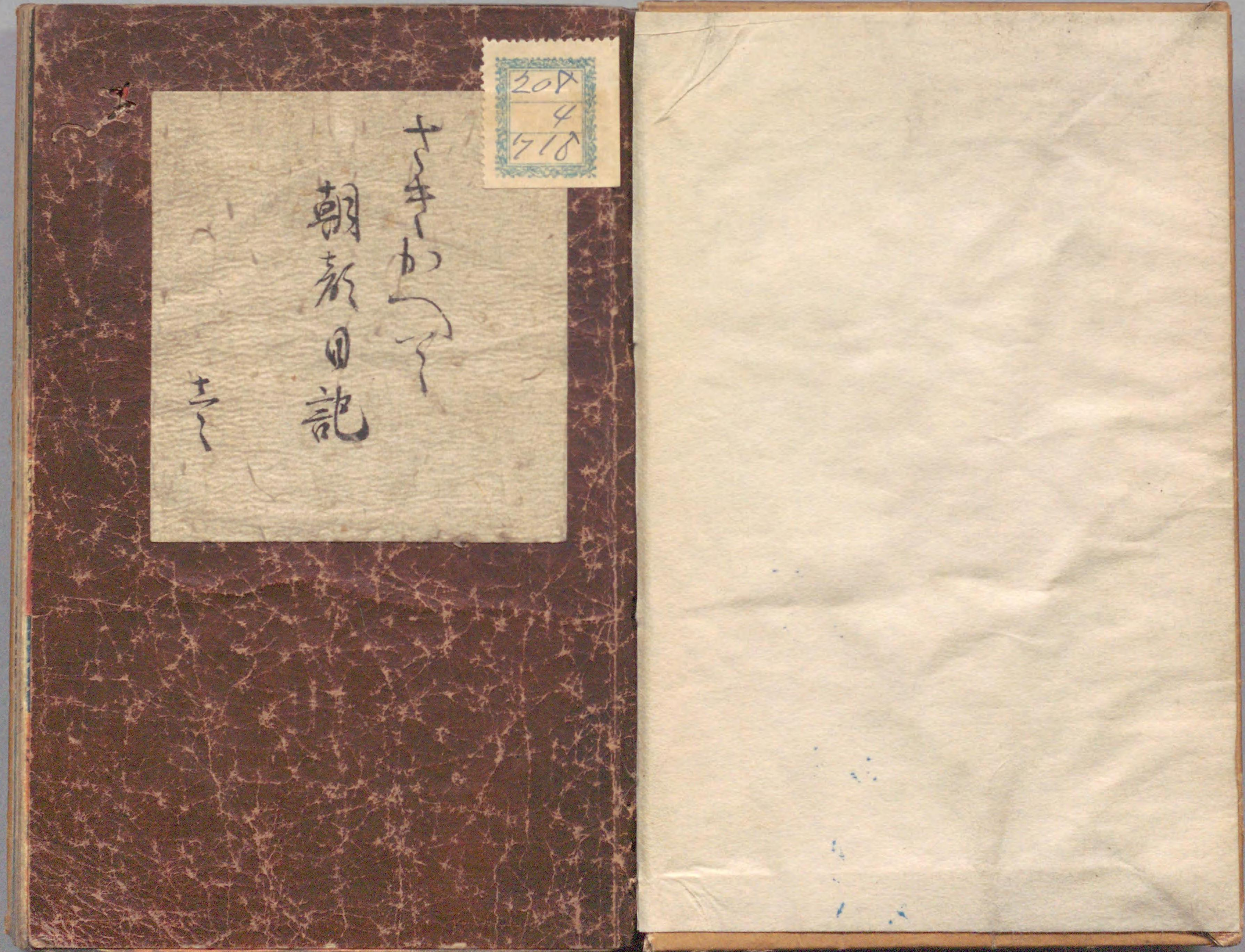
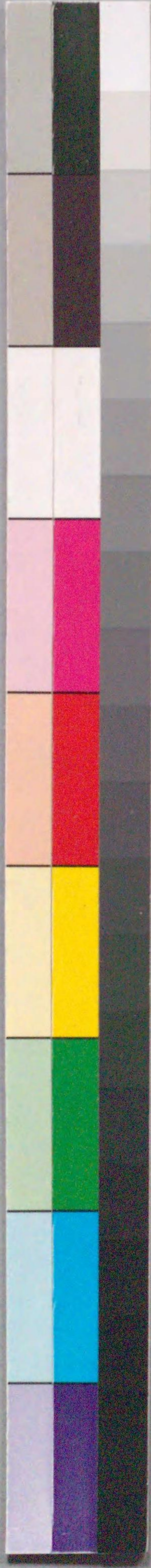


国立国会図書館

咲替葬日記 208-718



ガラス使用



208
4
718

十一年一月

朝教日記

七

国立国会図書館 咲替葬日記 208-718

ガラス使用





墨川亭作
一雄齋画

咲替薺
日記
初篇



燈

嘉永庚戌刊行

45.7.12
購求

新豊園画

錦昇堂板





朝顔あさがお不な五ご口くちのめしめふふ男おとこううみみとといい縁えん日ひののとと商あきなひままるる極うき木ぎ屋やのの口くち吟ぎん
 朝あさ白しろのの釣つり舟ふねささととててりりふふ水みづととハハ朝あさ炊ひききるるをを二に飯いひのの
 即すなはちちああははしし朝あさ白しろのの宿しゆく屋やのの段だん不ふ諸しよ人にんのの袖そでとと濡ぬ世よのの靴くつふふかかききるるじじとと
 葉は末すえのの露つゆとと消きええままのの世よ人にん本ほん意いををすすららるるをを先まのの冊さしふふかかききてて世よのの各おの
 僕わが不ふ厭えんとと書か賈がのの需いむむらられれもも 毫ことと抹ぬぎぎるるみみ先ま年ねんよりより九く七しち年ねん又また霧きり
 不ふるるとと論ろんををてて瘦うれれ衰しええ売うれれ腹はらとと固か辞じででるるもも情なさけをを作つく者もの少すくしし何なにをを成な好よろこぶぶ
 病やまとと擊うちちててままるるをを先まのの小こ箱はこのの葉はののああららみみななららししままるるののままたたのの續つづててままるるののああららみみ
 ままのの初はつ編ひんよりより三さん二に三さんまでまで今こ年ねんのの新あらた編ひんをを後のちにに早はやううとといいひひてて生なまませせうう

嘉永三年庚戌孟春

墨川亭雪磨戲題

空麻呂作
國輝連



咲可

於水本

日記

宇治

堂

乃卷

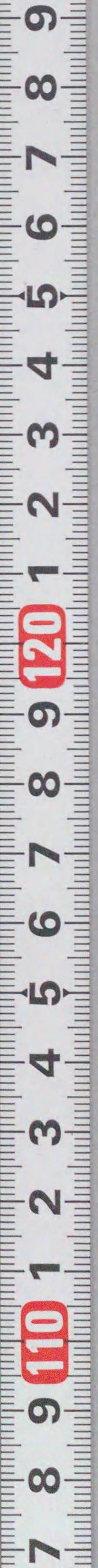
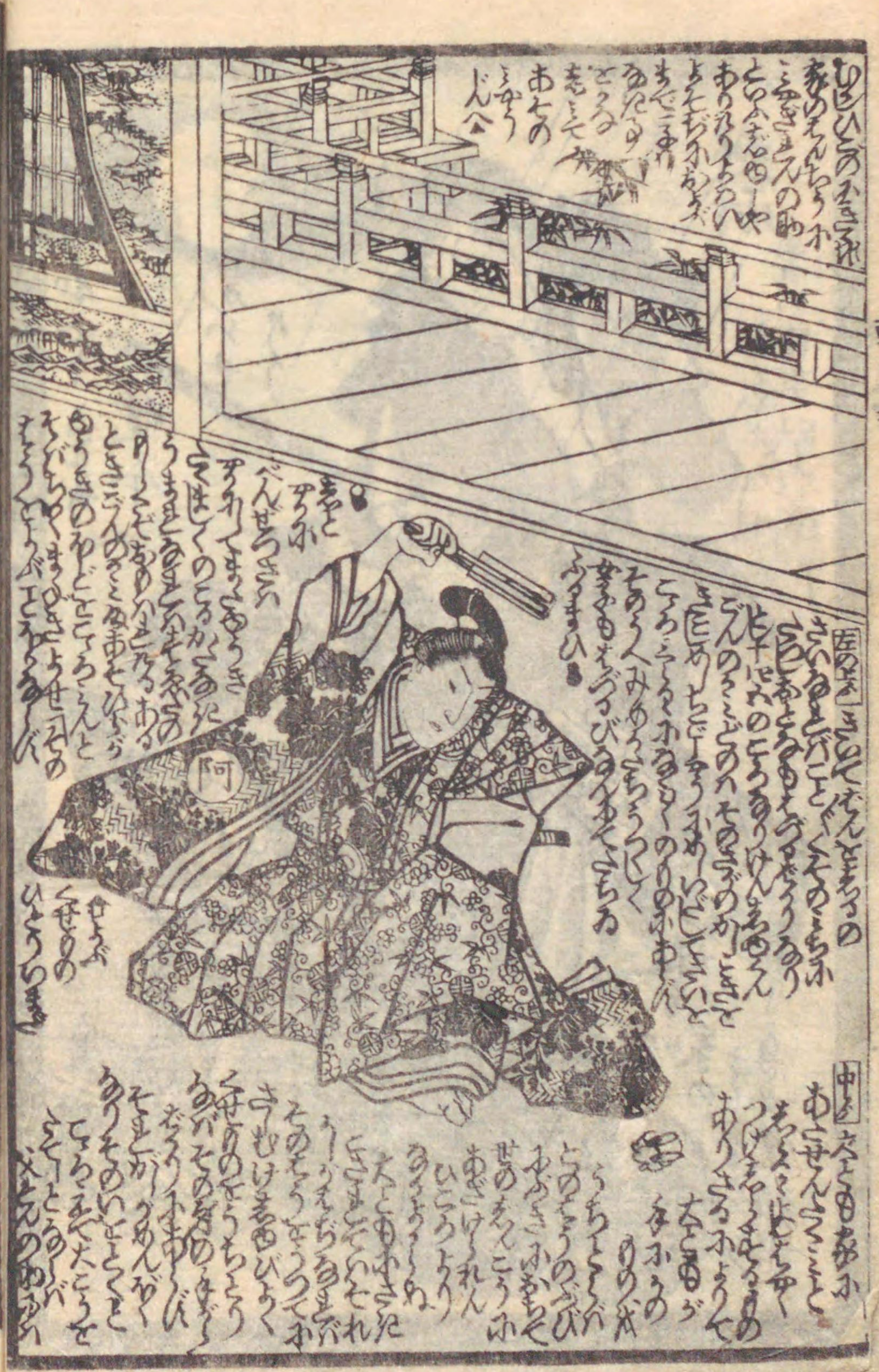
初編上冊

糸界堂持











月見

五



Handwritten text in a cursive style, likely a diary entry, covering the left page. The text is arranged in vertical columns, with some characters written in a larger, more decorative font. The page is numbered '120' in a red box at the top right.



國輝畫雪磨作之



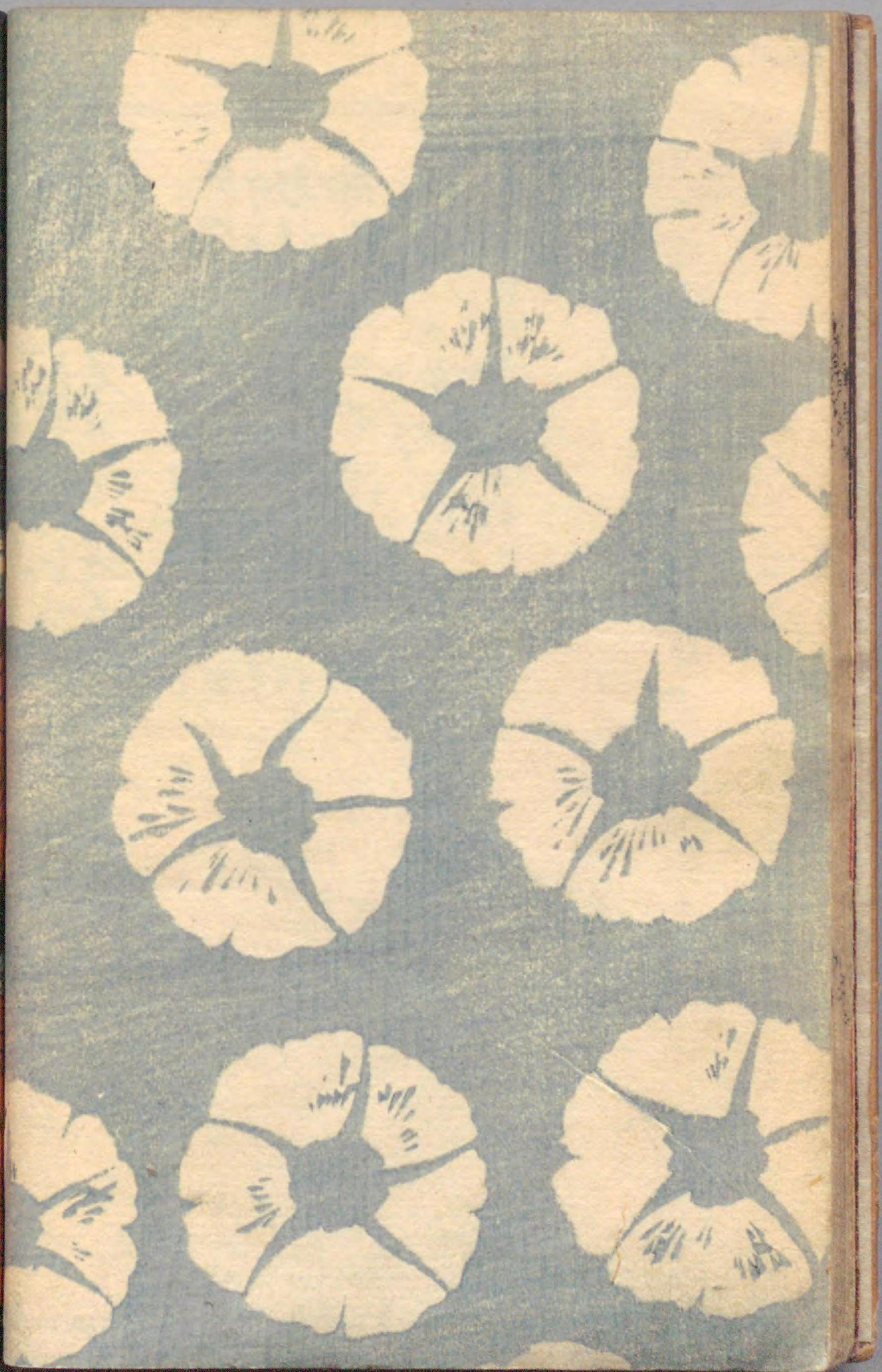
雨夜鐘四谷雜談

初編 柳下亭種員作
二編
三編 一猛齋芳虎画

此所小卷たる表題の雨夜の鐘と云ふの中、小鳴響する一箇の怪鐘は、江戸吾見、小今も怪異形と名小鳴、鬼小街於岩箱荷の小説、小波陸奥の安積沼、小舟と怨根と残し、小幡と小平治が本説と綴合せ、物語哀談小寒と雑交し、最面白き此協稗史なり。

地本錦繪版元 錦昇堂 惠比壽屋庄七梓

東都照降街北側



三
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百





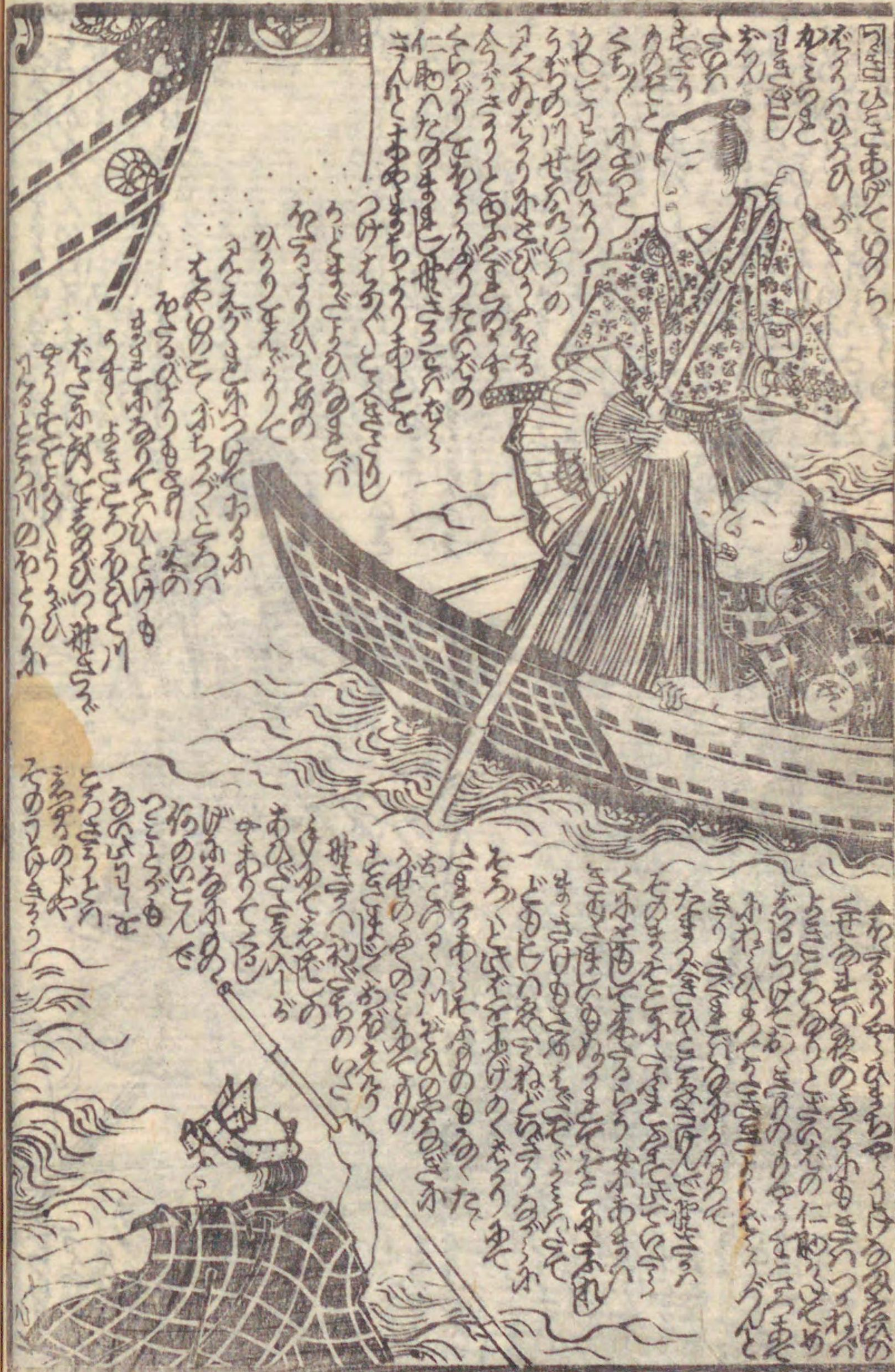
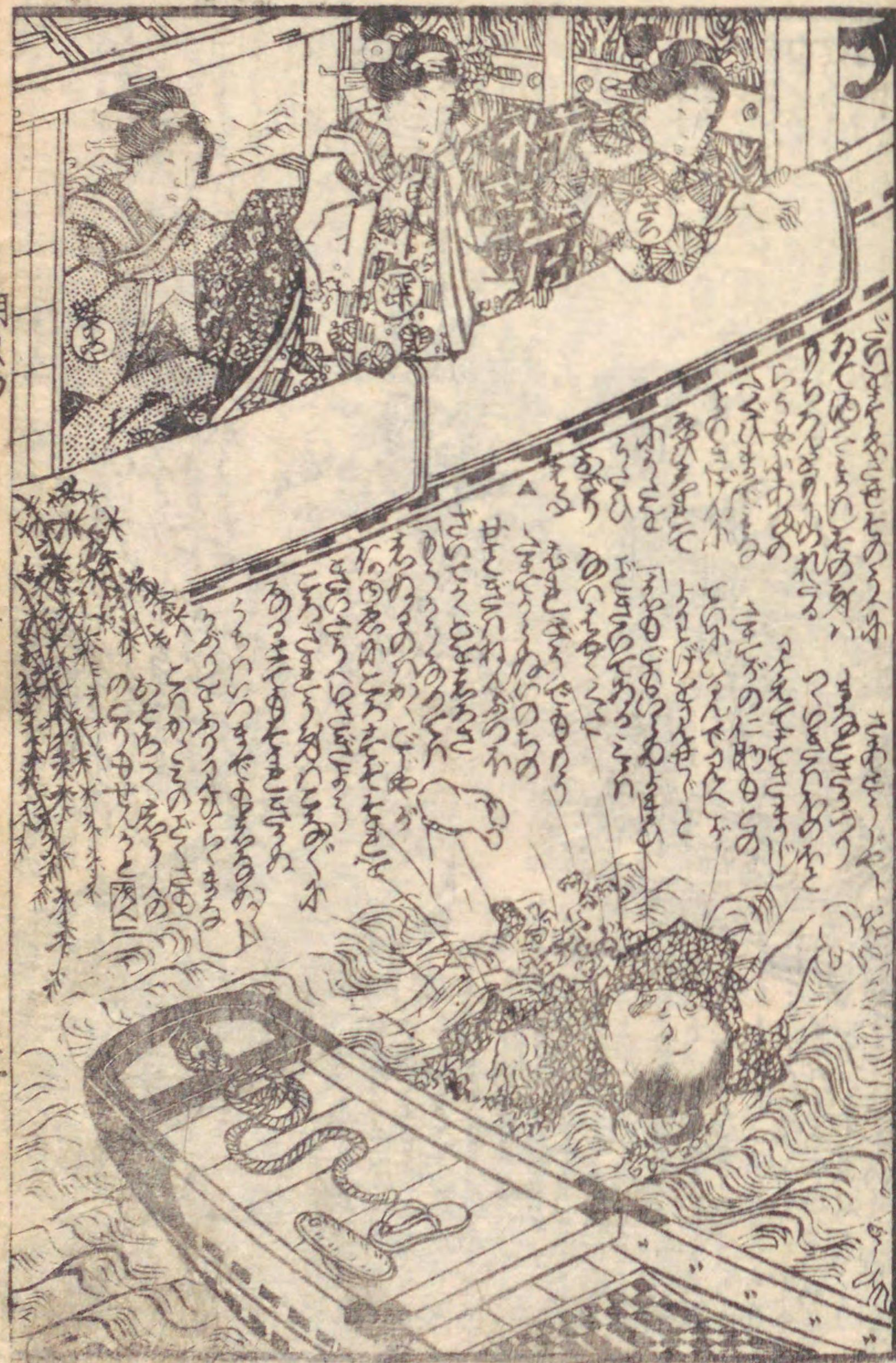
月

月





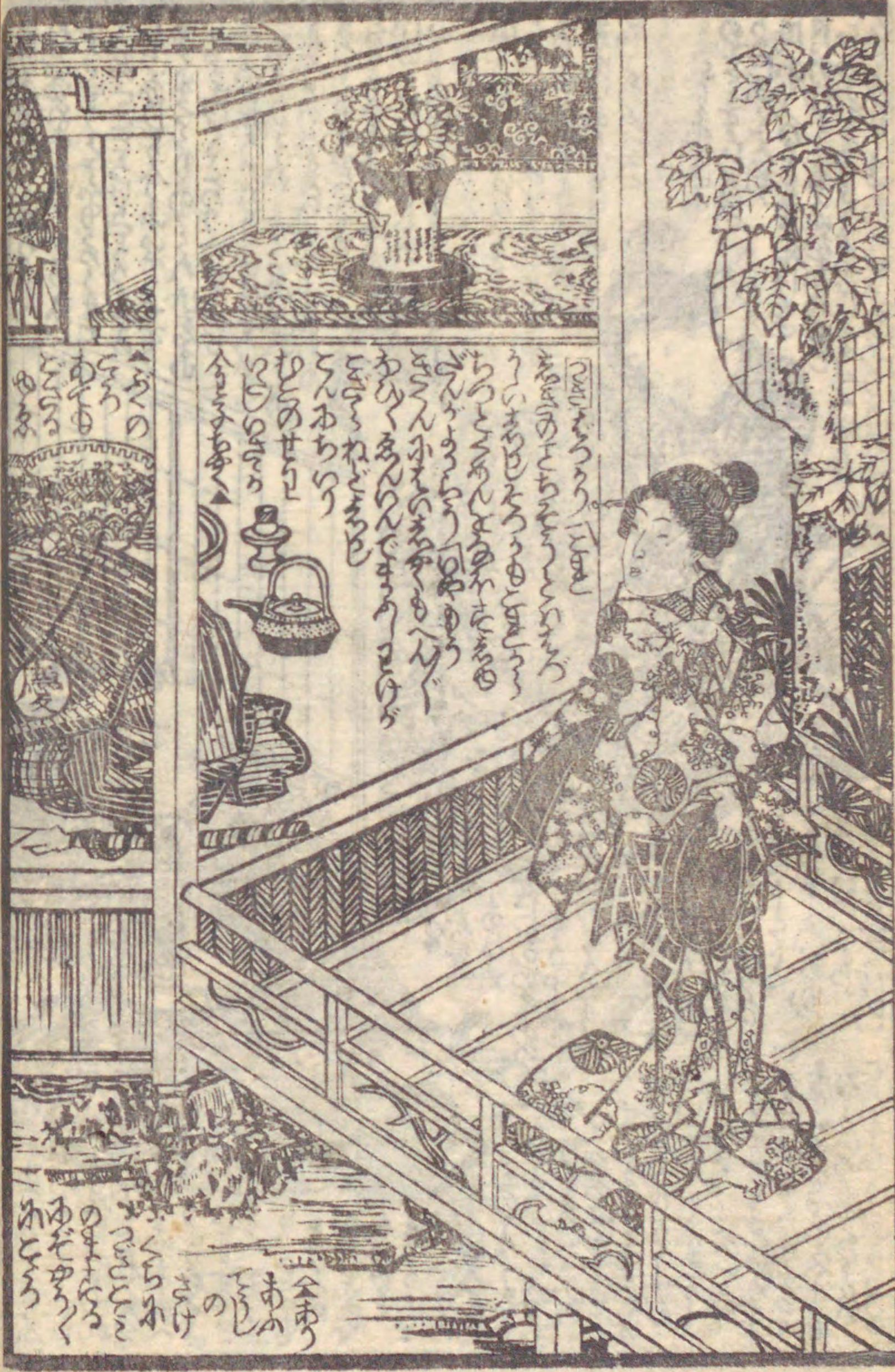












右の遅滞るく、設市おあよぶ。第四編よりの勢とて、小厩略いん
 の、駒次主君治、ゆめ小珠との、倭兵たるの、悉みと懲るるより。
 深雪の貞、ゆめ治と慕て終お替、女とて、巷小さなよひ、狼狽のさぬ。
 提婆の仁助、強悪脱、民孤兵衛、急の急報、拵、便屋、申、去、来、が
 俠氣、不、知、火、か、輝、の、仇、と、討、つ。盗賊の首、領、結、右、左、の、か、つ、り、横、切、り、の
 さ、な、る、ん、ど、怪、し、き、事、小、夜、化、ま、る、の、勢、向、た、る、ま、る。結、の、秀、官、笑、沙、の
 上、言、と、輝、と、揚、ら、ん、と、希、ふ

地本錦画版元

錦昇堂

惠比壽屋庄七梓

東都照降街北側

咲替葬日記

初編二編三編賣出シヤム

四編 五編

墨川亭雪磨作 一雄齋國輝画

一雄齋國輝畫



右の遅滞るく、設市おあよぶ。第四編よりの勢とて、小厩略いん
 の、駒次主君治、ゆめ小珠との、倭兵たるの、悉みと懲るるより。
 深雪の貞、ゆめ治と慕て終お替、女とて、巷小さなよひ、狼狽のさぬ。
 提婆の仁助、強悪脱、民孤兵衛、急の急報、拵、便屋、申、去、来、が
 俠氣、不、知、火、か、輝、の、仇、と、討、つ。盗賊の首、領、結、右、左、の、か、つ、り、横、切、り、の
 さ、な、る、ん、ど、怪、し、き、事、小、夜、化、ま、る、の、勢、向、た、る、ま、る。結、の、秀、官、笑、沙、の
 上、言、と、輝、と、揚、ら、ん、と、希、ふ

墨川亭雪磨作





一



長いの何ア不花頭蠻の反吐と極と昔の謎と多き世長りの取上り
 合巻の續物と年々小編と継巻と移るの長譚小春の目長成慰
 草子の發市と未長と兒童のさそを雀頭前年の秋發ゆせと後
 長と盛のあじと越の長濱長く作者が不辨の長口と矢矧の橋
 の夕日の図画長いの少の摩訶般若六百卷まで継棹の見板の長管
 ちよいと祝美小ひくや霞も富士の根小長くまとい朝がけの
 ねる小候移り盛の長ふ薺日記とちよろと寿く長口上序文の
 かりのふまるとふむ

嘉永三年庚戌孟春

墨川亭雪齋題之

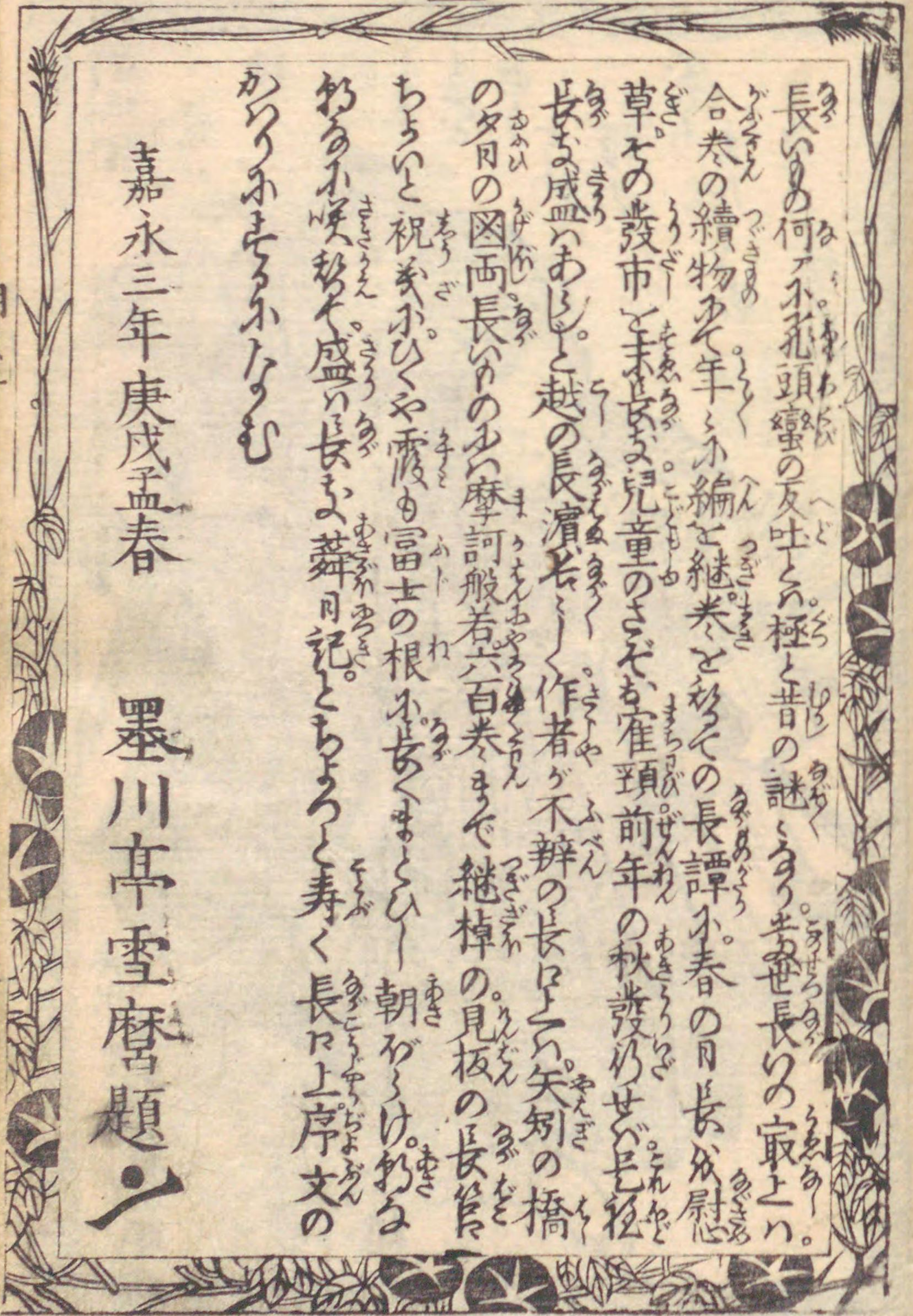


圖
二編上冊

國輝畫

錦昇堂持

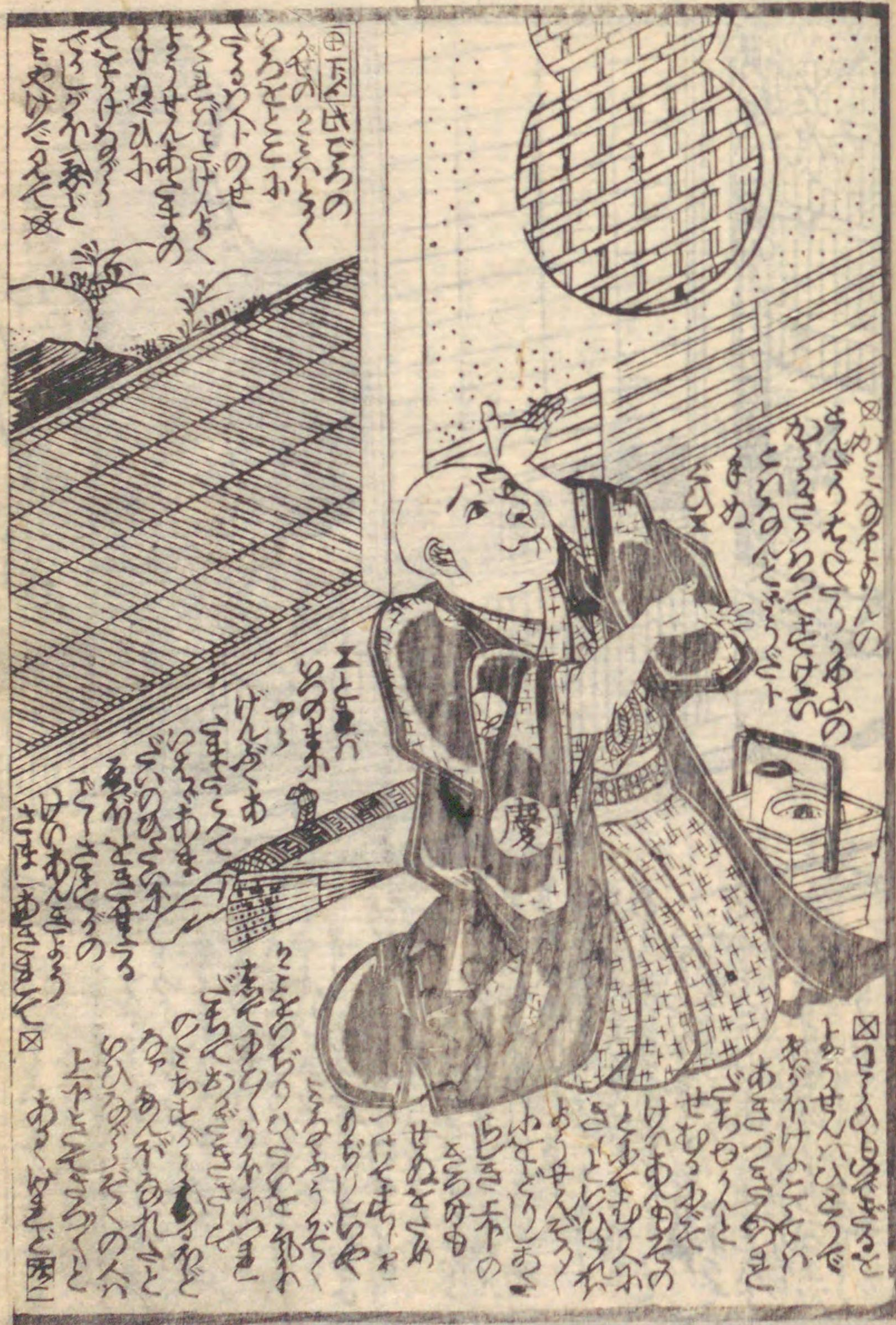




朝東二









國輝画雪齋作



誠忠 大星譚

初編 二編 三編

柳下亭種員著作 香蝶樓豊國画

四十七士を復讐のり跡に江湖小贈交きて昔知りの不たりの
此物語の又更し新書数本を探り或は伝説の異説を
年と積で稿をぬ是迄園のひひする義士傳不漏る話少く
称説多し其製本も稗史と續本とを帯びて
疑せし一種の初編後編の月よう酌由遅滞る考を流して
致せが此書院高評は皆其而已

地本錦画版元

錦舞堂

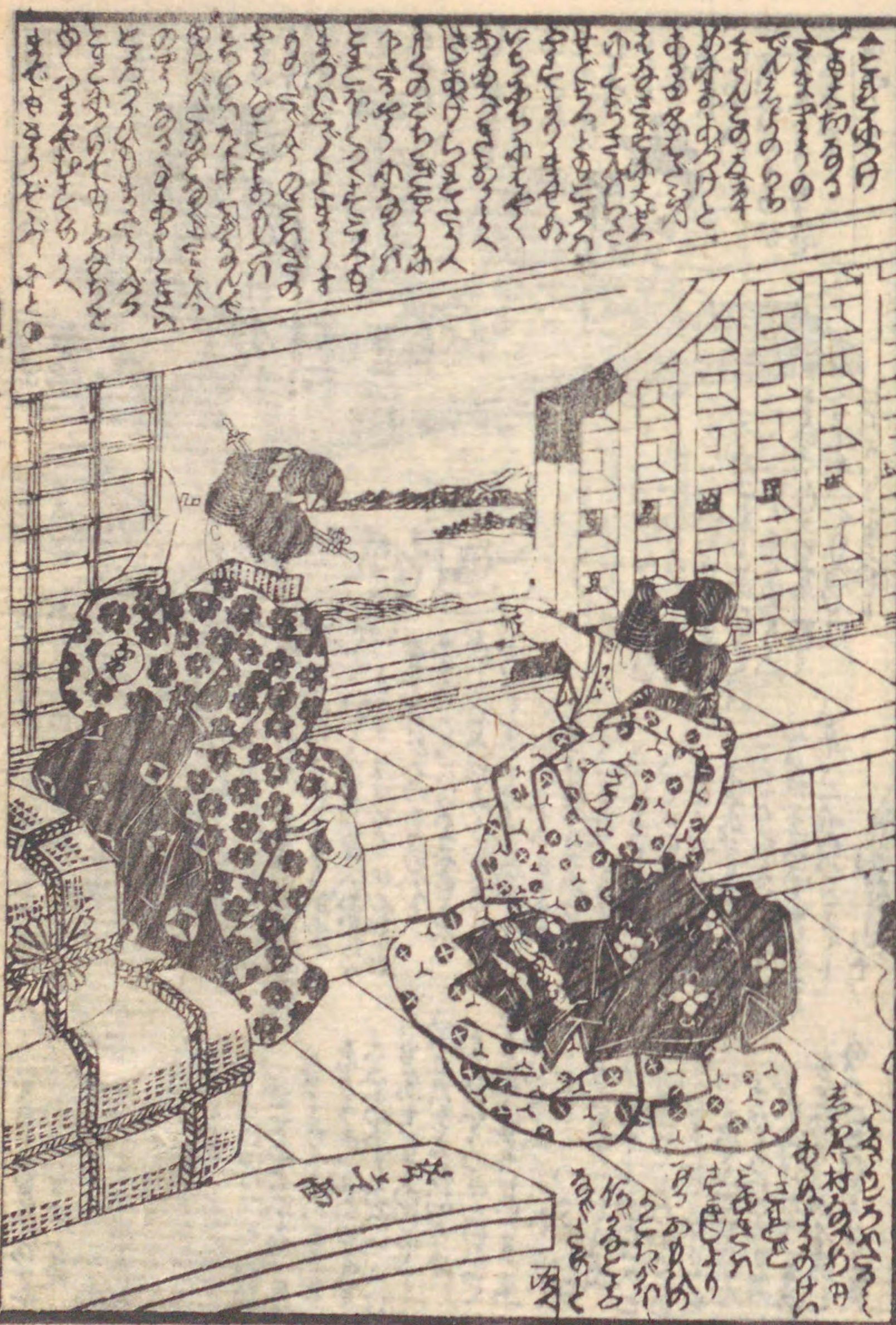
東都照降街地側

惠比壽屋庄七梓

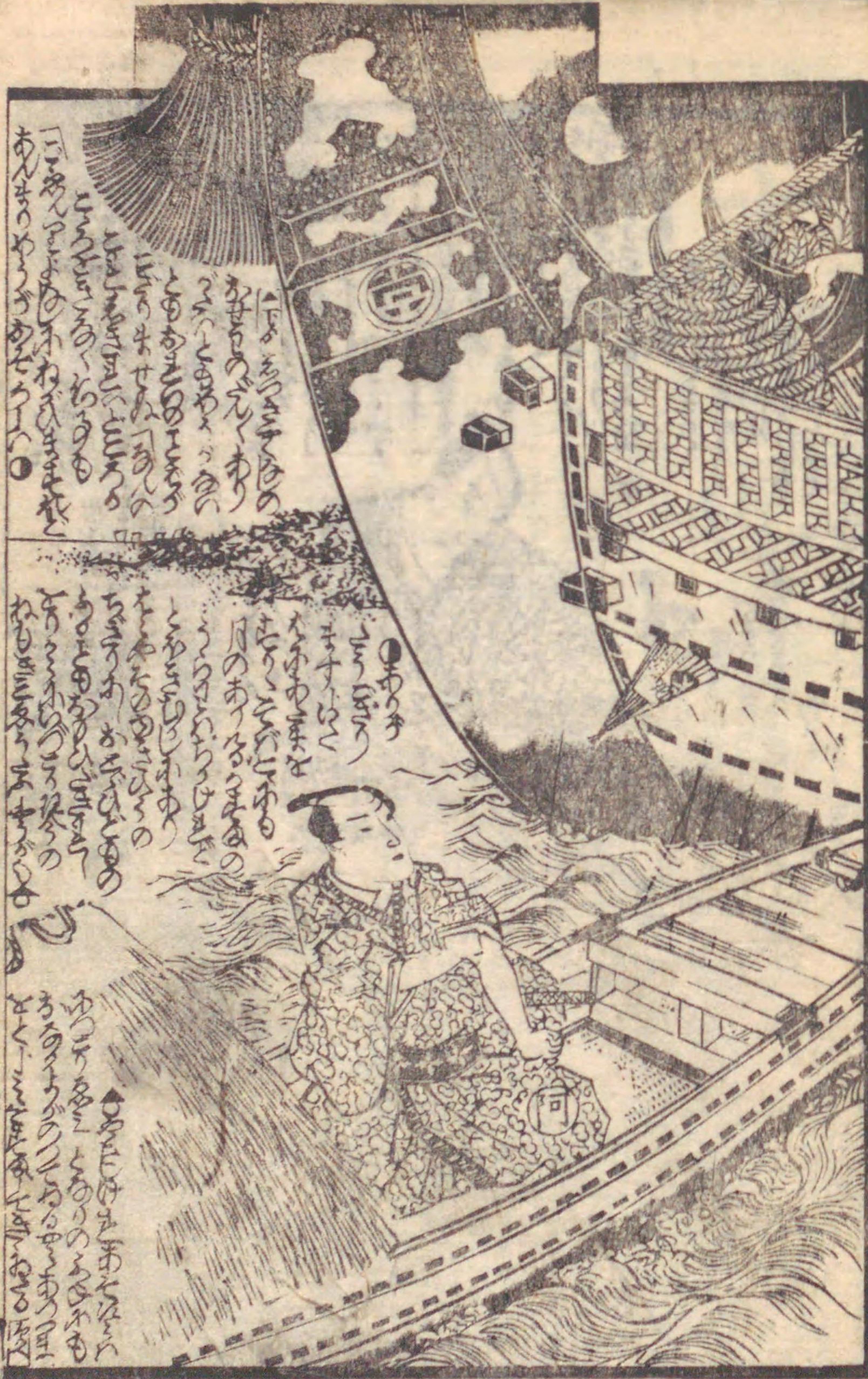








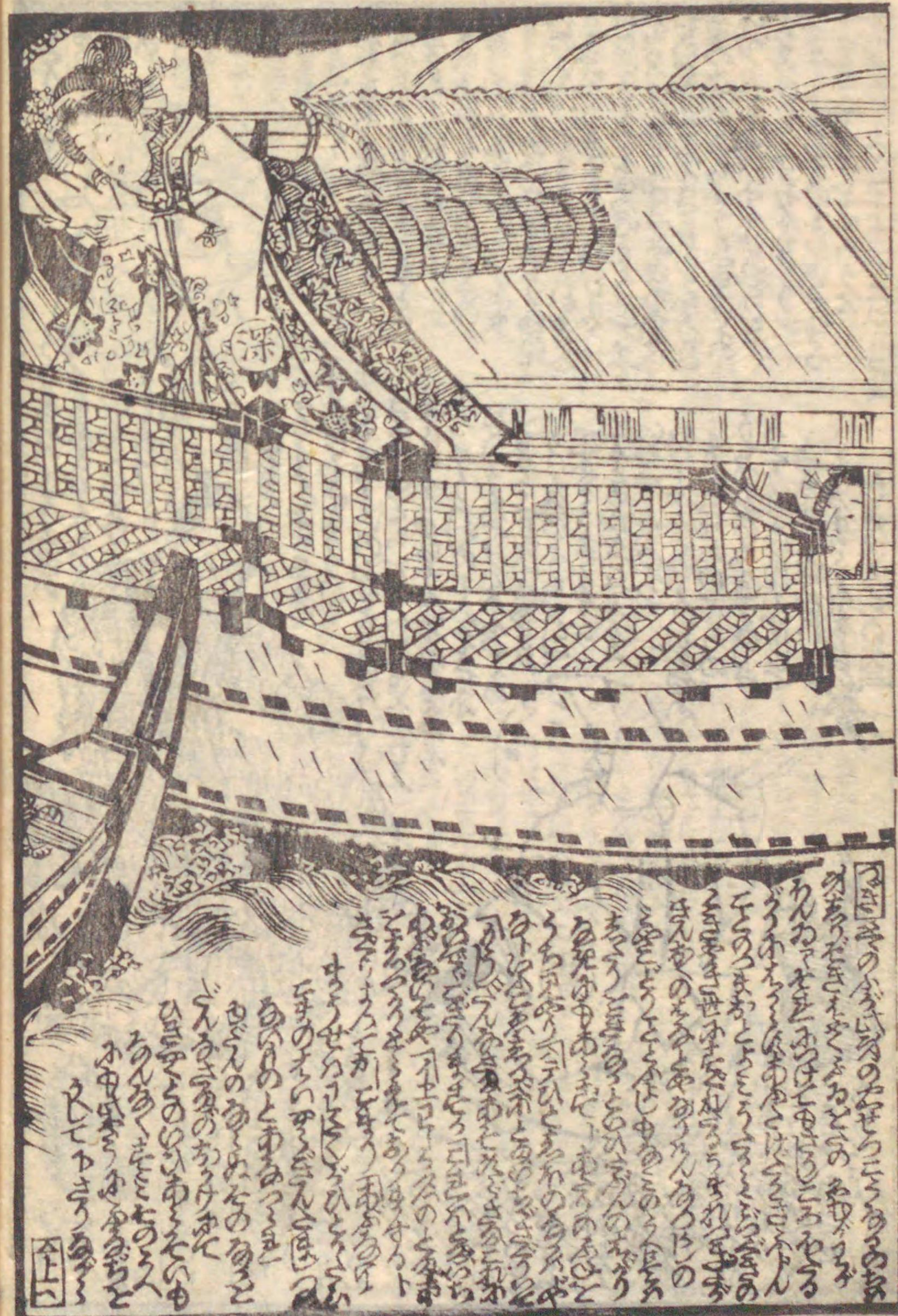




Handwritten text in the upper left corner of the left page, written vertically in a cursive style.

Handwritten text in the middle left section of the left page, written vertically.

Handwritten text in the lower left corner of the left page, written vertically.



Handwritten text in the lower right section of the right page, written vertically.

Small vertical text on the right edge of the right page, possibly a page number or chapter indicator.



7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

國輝画雪磨作



十勇士尼子礎

初編 二編 三編

柳下亭種員著作
香蝶樓豊國面画

所謂尼子妻名ノ十勇士ハ山中鹿之助○五月早苗之助○大谷古猪之助
早川純之助○横道兵庫之助○寺元生死之助○秋吉菴之助○藪中次之助
高橋渡之助○荒浪碓之助等則是方ノ名振るる者也知用ひて
快と討勇と顯して快怪と退治し此他仁義忠孝信面々得意とせる
不ありて百折千磨の苦勞と経尼子の家小集會までと最面白く
綴るる策子なり發圖と待ちて高評と
あつらんのと只等と奉希而已

地本錦画版元 錦昇堂 惠比壽屋庄七梓

東都照降街北側

208
4
718

侍
阿比賀原
日記
國輝画
二面
堂
磨
作

吾山孝



廣成新鑄
孫昇堂板

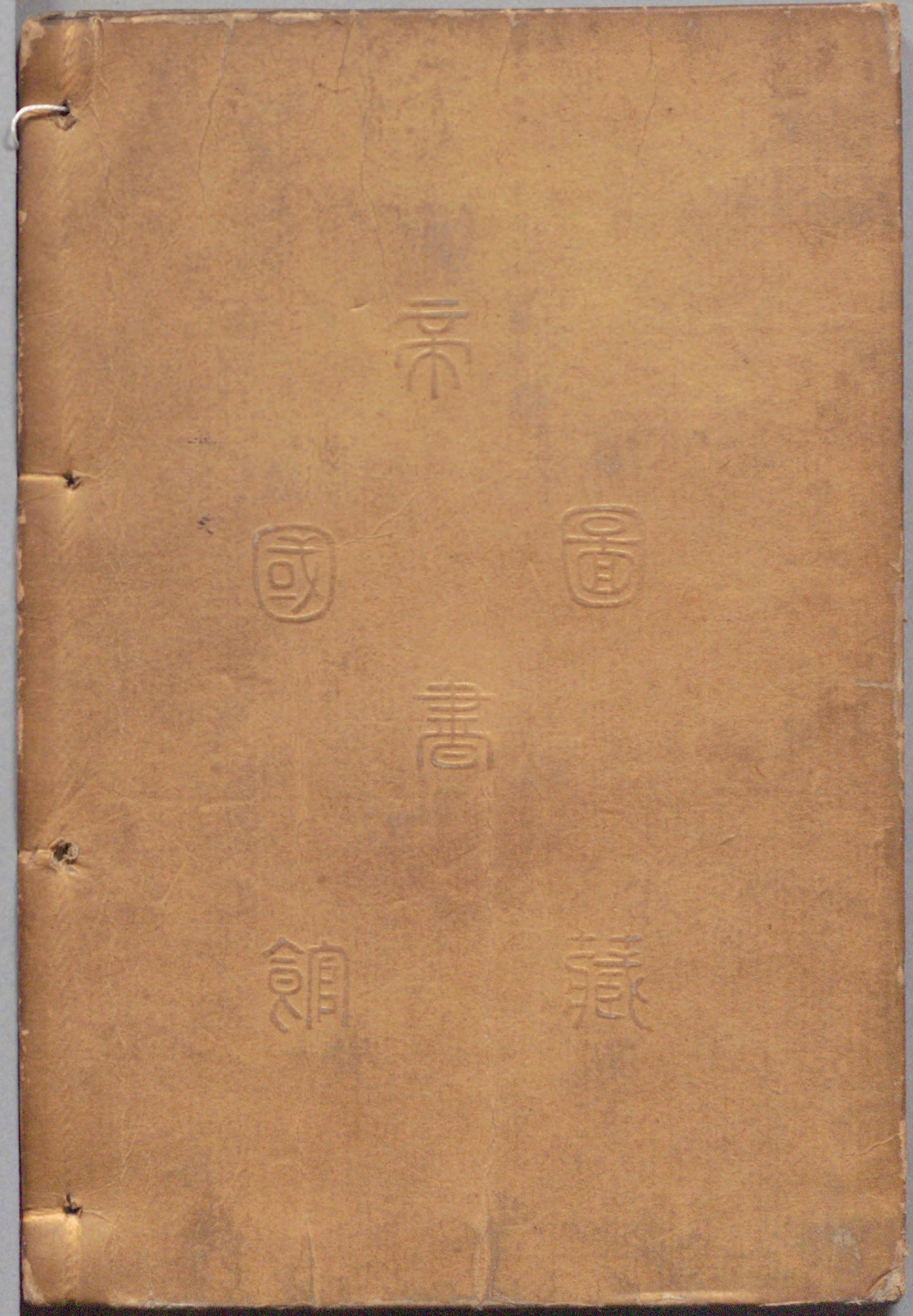
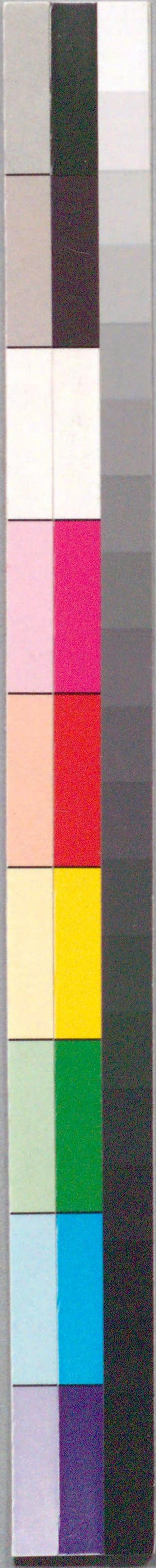


車
二



208
4
718





国立国会図書館 咲替薺日記 208-718

ガラス使用